

氏名（本籍） 清野 隼

学位の種類 博士（コーチング学）

学位記番号 博乙第 2996 号

学位授与年月 令和 3 年 3 月 25 日

学位授与の要件 学位規則第 4 条第 2 項該当

審査研究科 人間総合科学研究科

学位論文題目 ハイパフォーマンスコーチングにおける栄養
サポートの在り方

-競技力向上と人間力育成の観点から-

主査	筑波大学教授	博士（体育科学）	尾縣 貢
副査	筑波大学教授	博士（コーチング学）	會田 宏
副査	筑波大学助教	博士（スポーツ医学）	平岡拓晃
副査	筑波大学准教授	博士（学術）	麻見直美

論文の内容の要旨

清野 隼 氏の博士學位論文は、ハイパフォーマンスコーチングにおける栄養サポートの在り方について、競技力向上と人間力育成の両方の視点から検討したものである。

その要旨は、以下の通りにまとめられる。

【序論】

1. 研究目的

著者は、競技力の向上と人間力の育成の両方に寄与するハイパフォーマンスコーチングにおける栄養サポートの効果的な在り方を明らかにすることを目的として研究を進めた。ハイパフォーマンスコーチングにおいてコーチングとしての栄養サポートの在り方に言及している先行研究は少ないため、本研究で得られた知見は、トップアスリートの効果的な競技力向上に繋げることができるという意義を主張している。

2. 研究課題

上記の研究目的を達成するために、著者は以下の 4 つの研究課題を設定した。

研究課題 1 ハイパフォーマンススポーツ現場における栄養サポートの必要性

研究課題 2 ハイパフォーマンススポーツ現場が求めるスポーツ栄養士の資質・能力

研究課題 3 わが国の柔道リオオリンピックメダリストの食行動変容に影響を与えた要因

研究課題 4

(事例 1) 大学男子ラグビー部のプレシーズンにおける夏合宿期の栄養サポート: 体重減少を
防ぎ自律性を高めるために

(事例 2) 全国高等学校野球選手権出場チームのオフシーズンにおける栄養サポート: 体力
要素を向上させ主体性を高めるために

【本論】

1. 研究課題 1

トップアスリートやそのコーチ、トレーナーを対象に、栄養サポートの必要性と求める内容について、質問紙により調査をしている。結果として著者は、対象者の中でも栄養サポートを必要としない者がおり、その理由として、サポート効果の未実感や、スポーツ栄養士としての責任感の欠如、スポーツ栄養士としての能力欠如などをあげている。一方で、アスリートは、個別性や個別教育を前提とした食生活のマネジメントを基に、競技力・パフォーマンスの向上を求めており、その栄養サポートを通して、置かれた食環境に適応して主体的に考える自己調整力の向上を求めていることを指摘している。

2. 研究課題 2

課題1と同じ対象者へのアンケート調査をとおして、著者はハイパフォーマンススポーツ現場に求められるスポーツ栄養士の資質・能力を検討している。その結果として、アスリート、コーチ、トレーナーは、立場によって要求する資質・能力が少しずつ異なることをスポーツ栄養士は認識し、サポート実践を通して、スポーツ栄養に関する高度専門性を高め続ける必要のあることを明らかにしている。

3. 研究課題 3

柔道リオデジャネイロオリンピックメダリストを対象に、食行動変容に影響を与えた要因についてインタビュー法とグランドセオリー法を用い、事例的に検討している。その結果、省察や内省を行うことによる内発的動機づけが食行動変容に影響を与えていることを明らかにしており、それには栄養士の指導や関わりが外的要因としてあることを示している。加えて、著者は小学生期や中学生期の母親の食事も何らかの影響を与えていることを指摘している。本研究で得られた課題としては、内発的動機づけを強化するための効果的な栄養サポートの在り方をあげている。

4. 研究課題 4

研究課題 1 から 3 で得られた知見と課題から、競技力向上と人間力の両方の育成を目指す 2 つの事例のコーチングを展開している。事例 1 は、大学男子ラグビー部を対象とした体重減少を予防するための栄養サポートであり、自律性を高めることも目的にしたコーチングを実践している。その結果として、著者は体重減少と自律性を高める栄養サポートの在り方を事例的に示すことができたことを報告している。同時に、短期計画における限界点を課題としてあげており、長期的な競技者育成計画に基づいて実施する必要性を示唆している。

事例 2 は、高校野球トップチームを対象にした体力要素の向上のための栄養サポートの中で、同時に主体性を高めることを目的としたコーチングを実践している。その結果、体力要素の向上と主体性を高めることの両方を達成できたことを事例的に明らかにしている。課題としては、保護者などすでに内発的に動機づけされた対象者に対する栄養サポートの在り方をあげている。

Ⅲ. 結論

ハイパフォーマンスコーチングにおける栄養サポートは、アスリートの競技力向上に繋がる食生活のマネジメントを個別性に基づいて継続的に行う中で、自己調整力の向上に寄与するものであると指摘している。本研究で得たハイパフォーマンスコーチングにおける栄養サポートに関する知見は、スポーツ栄養士に要求される資質・能力を高め続けることに役立ち、コーチングを通じた実践と理論を積み重ね続けることによりアスリートの競技力向上に資することができると述べている。

審査の結果の要旨

(批評)

コーチングの視座から、競技力のみならず人間力を育成するための栄養サポートの在り方を取り上

げた本論文は、この分野の先駆的役割を果たしている。前半で論じられたスポーツ栄養士に求められる資質およびサポートの在り方は、今後のスポーツ栄養士養成のカリキュラム作成にも強い影響を持つと言える、また、後半の事例的研究で明らかになった栄養サポートの課題は、今後の同分野の研究の展望をもたらすものである。

令和3年1月29日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、学力の確認を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士(コーチング学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。